

授業科目名	ジェンダー論	担当教員	夏 世明
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第1クォーター		
講義内容	<p>「大黒柱は男性であるべき?」「男は泣いちゃいけない?」「女性ならではの感性」……。性別に関わる事柄は、しばしば当たり前のこととみなされがちである。しかし、男らしさや女らしさ、性別役割分業といったものは、社会によって作られたもの、すなわち「ジェンダー」であると言える。</p> <p>ジェンダーといえば、女性の社会進出や家事・育児労働、SDGsといったトピックに関連して「女性の視点」が取り上げられることが多い一方で、男性中心の社会構造（見えない制度的問題も含む）がどのように影響しているのかについては、男性の視点から見直す必要がある。</p> <p>本講義では、「ジェンダー」という視点を通して、現代社会のさまざまな現象（家庭と学校教育、家事・育児、働き方、キャリア形成、職場マネジメントなど）を読み解くことを目指す。特に講義後半では「男性性」に焦点を当て、男性が抱える生きづらさや居場所の問題、差別、ハラスメントなどについて考察する。これらのトピックは、公正な社会を目指すうえで決して他人事ではない。性別を問わず、受講生が自身の経験や見聞を踏まえながら、積極的かつ主体的に参加することを期待する。</p> <p>本講義は、基本的に講義形式（要点解説）を軸に、アクティブラーニング（発表・討論）を組み合わせる。各回の内容に基づき、受講生全員が自身の経験や見聞をもとにグループディスカッションを行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーの基本概念を理解し、それを説明できるようになる。 2. ジェンダーの視点を通じて、社会に存在する固定観念や偏見を考察できるようになる。 3. ジェンダーの視点を活用して、演劇作品や観光業のイノベーションへの理解を深めることができるようになる。 		

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セックスとジェンダー 2. 作られるジェンダー規範（男らしさ・女らしさ） 3. 家庭におけるジェンダー 4. 学校教育や恋愛におけるジェンダー 5. キャリア形成と職場マネジメントにおけるジェンダー 6. 文化産業・観光産業におけるジェンダー 7. 中間まとめおよびゲストスピーカー講演 8. 男性学（男性性や男性問題） 9. 男性の労働、居場所、恋愛 10. 男性の育児（ゲストスピーカ講演） 11. 男性の生きづらさやハラスメント 12. 全体総括とレポート作成 <p>※上記のスケジュール、講演等は、調整状況により変更になる可能性有り。</p>
事前・事後 学習	<p>事前学習：次回トピックに関する情報収集、整理などを行う。</p> <p>事後学習：講義内容を復習し、リフレクションシートを提出</p>
テキスト	テキストの指定は無い。資料は、必要に応じて配付する。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 『女性学・男性学ー ジェンダー論入門ー』第3版 有斐閣、2019 2. 田中俊之 『男性学の新展開』青弓社、2014 3. 多賀太『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方』時事通信出版社、2022 4. 青野篤子・土肥伊都子・森永康子 『[新版] ジェンダーの心理学ー「男女」の思いこみを科学するー』ミネルヴァ書房、2022 5. サラ・アーメッド『苦情はいつも聴かれない』筑摩書房、2024
成績評価 の基準	<p>10回以上の出席を前提に、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率：20% 2. リフレクションシートの内容：15% 3. クラスへの貢献度：15%（グループディスカッションへの貢献度） 4. 授業内容に関する確認小テスト：20% 5. 期末レポートの内容：30%（論点の提示、レポートの書き方）
履修上の注意 履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【要注意】成績評価基準は厳守いたします。 2. 事前学習を含め、相当の学修時間（週3時間程度）が必要となります。
実践的教育	該当しない。
備考欄	<p>50名を超えた場合、抽選を行う。</p> <p>2025年カリキュラム：2025年度以降の入学生のみ履修可 （2021年～2024年度入学生：履修不可） R8～</p>

